

授業科目	授業概要	開講日	形態
考古学特論A	本講義では、日本列島における生活環境の復元を環境考古学的な手法を用いて弥生時代、古墳時代を事例をもとに考察する。	金曜・3-4限	ハイブリッド
考古学特論B	中国には農耕を基盤とする文明が早くに成立し、日本列島を含む東アジア世界に大きな影響を及ぼした。一方、気候が冷涼で農耕に適さない中国北方は、ユーラシアに広がる遊牧系の文化に属し、中国文明と対峙した。本講義では新石器時代から秦漢期までの両地域の考古学をテーマとする。両地域の比較を通じて、中国文明と周辺地域、ユーラシアにおける中国文明などの問題に考察を及ぼす。	木曜・1-2限	対面
アジア美術史特論A	本講義では、奈良時代後期～平安時代中期までの仏教彫刻史について扱う。最近の研究成果を踏まえながら、奈良・京都を中心とした寺院に安置される重要作品群について考察する。	木曜・5-6限	対面
古代文化学特論	本授業では近年の研究動向や成果を踏まえて、前半では奈良の考古学について、後半では東大寺の歴史と仏教美術について考察する。※ 金曜9-10限 6コマ程度、土日を利用したフィールドワーク 10コマ程度で開講予定。	金曜・9-10限、 その他	対面
文化財学演習A（木簡学）	平城宮跡の発掘調査で初めて木簡が出土してから60年以上が経ち、木簡は今や古代史研究に欠かせない基本史料の一つとなった。木簡研究が始まった当初に示された木簡学の理念が定着してきた一方で、従来の枠組みにとられない新しい視点の獲得が求められている。このような状況をふまえ、日本の木簡学のアップデートを目指す。	水曜・午後	対面
文化財学演習B（東アジア考古学）	本講義では、7-8世紀における日本古代都城について東アジアの都城遺跡との比較研究を試みる。考古学が中心となるが建築史や仏教美術史、宗教学などの成果も総合的に検討する。（※本授業の履修は同特論Bの既履修者に限る）	水曜・午後	対面
文化財学演習C（歴史考古学）	本講義では、文化財特論C（歴史考古学特論Ⅰ：平城宮・京跡をフィールドとして、歴史考古学の概念と研究史を学び、木器・石器・金属器等を教材として歴史考古学の研究手法を習得することを目指す）で学んだ歴史考古学の研究手法を発展させ、より高度な研究視座の習得を目指す。	水曜・午後	対面
文化財学演習D（日本古典文化資料論）	日本の古典資料のなかで大きなウェイトを占めるものに、仏教関係資料がある。本講義では、実際の資料（文化財）事例をもとに、基礎的な知識から個別の資料まで、総合的な情報を理解していく。	水曜：5_6限	対面
文化財学特論F（古代文化学）	文化財学としての埋蔵文化財・考古学について、専門を異にする榎原考古学研究所の研究者が分担するオムニバス形式の授業。日本考古学をめぐるさまざまな課題や最新の研究成果について、それぞれの専門分野における視点から考察する。	金曜：7-8限	対面